

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
機能的解剖学 The functional anatomy		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	特に制限は設けない	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
運動生理学 トレーニング論 トレーニング演習				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
健康運動実践指導者資格該当科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
池田 和正	非常勤講師室	授業中に指示いたします	授業中に指示します	
授業の概要				
機能的解剖学では健康運動実践指導者としての基礎的知識の習得を目標に授業を行い、その中で身体構造、バイオメカニクスについて学習する。身体運動に関する骨や筋肉、関節の名称や、弾性エネルギーや空中でのボールの空気抵抗、着地での衝撃などをバイオメカニクスの角度から見て学習する。				
授業の目標				
①身体運動に関する骨と筋肉の名称が理解できるようにする。 ②呼吸循環器系の位置と働きを理解できるようにする。 ③バイオメカニクスの基礎的知識が理解できるようにする。				
授業の方法				
講義、実技指導、ディスカッション、事例研究などを行い、健康運動実践指導者としての基礎的知識の習得				
学習の成果（学習成果）				
①骨と筋肉の名称を説明することができる。 ②呼吸循環器系の位置と働きが説明できる。 ③走る・投げる・跳ぶと動作をバイオメカニクスの見地から説明ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の進め方、成績評価方法、授業での注意点）			
第2回目	体表の区分 運動の表し方			
第3回目	神経系・循環器系の概要			
第4回目	身体運動に関する骨の構造			
第5回目	身体運動に関する筋と腱・靭帯の構造			
第6回目	関節運動と全身運動			

第7回目	上肢の関節の構造と運動	
第8回目	脊柱と胸部の構造と運動	
第9回目	骨盤と下肢関節の構造と運動 解剖学小テスト	
第10回目	バイオメカニクスとバイオメカニクスを学ぶ前の物理学の基礎	
第11回目	歩行・走動作のバイオメカニクス	
第12回目	跳動作のバイオメカニクス	
第13回目	投動作のバイオメカニクス	
第14回目	運動と流体力 バイオメカニクス小テスト	
第15回目	筋・骨・関節などの運動障害	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	評価の基準
授業参加態度	割合 10%	教材の準備状況や授業を聞く姿勢で評価する。Sは、テキスト、配布プリントなどが整い、しっかりと講義内容をメモしていること。
レポート		
調査報告書		
小テスト	割合 10%	骨・筋肉の名称について的小テスト
試験	割合 70%	
発表内容（態度含む）	割合 10%	要点をまとめ、はっきりとした口調で発表ができていないか評価する。
その他		
教科書と参考図書		
健康運動実践指導者養成用テキスト		
履修上の留意点・ルール		
時間厳守		